

史料館この一年 大 国 正 美

◆研究と史料収集

調査研究では二〇二四年度は大きな成果があった。正寿寺に伝来する蓮如筆と伝えられる「南無阿弥陀仏」の六字名号が、専門家から真筆に間違いはないとお墨付きを戴いた。深江文化村についても、職業不詳だった住民のワルターに関する史料が数多くコレクターから紹介いただき、保険代理店を営むベルギー人で戦後まで在住していたと分かった。また史料の収集では、谷崎潤一郎の夫人、松子の書簡が寄贈され展示を始めた。いずれも本誌に成果を掲載した。成果の公開では、本誌で連載中の岡田茂義氏の『深江の心象風景』を次女の福田誠子さんのご支援で単行本として発刊、一年で在庫が底をつき、福田誠子さんに増刷いただいた。

◆イベント・取材協力

イベント関係では、地方史研究協議会の初の兵庫大会が十月十九日、二十日甲南大学で開かれ、史料館の紹介展示を行った。また毎年行われている魚屋道を歩く会に先立ち、初心者向きの「魚屋道さんぽ」が行われ、解説に協力した。例年通りではひょうごプレミアム芸術デーに協賛し、田中邦彦画伯の作品を展示、関西文化の日にも協賛した。このほか、山納洋氏の取材に協力、『歩いてよみとく 地域経済』（二〇二五年三月）が出版され、財産区による地域遺産の保全と継承の事例として紹介された。また神戸に平和記念館をつくる会に写真を提供、三月に長田区文化センターで開催された「神戸空襲と神戸港の写真展」で展示された。

関西テレビ、NHKのペロ・シロタ調査協力、朝日放送テレビ「newsおかえり・なんでやねん!？」などのテレビ番組の取材協力、福井県の今立吐酔調査協力、日本女子大の佐々木陸摩氏による深山杲氏の調査にも協力した。

◆図書館サービスポイント事業

令和六年度（二〇二四）の史料館での神戸市立図書館の予約図書受取や図書返却サービスは、貸出冊数月平均一六六五冊（前年比一一〇％）、返却冊数は一六七九冊（同一〇八％）、貸出を利用した人数は月平均五六六人（同一〇四％）でいずれも過去最高を更新した。過去最高だった二〇二三年は月平均の貸出数が一五一〇冊、返却冊数が一五四七冊と、初めて一五〇〇冊を突破したが、今年度とともに一六〇〇冊を突破。三月は貸出二一三〇冊、返却二一六九冊と、初めて単月で二〇〇〇冊の台に乗った。毎月の人数・冊数は表の通り。

施設の改善も行った。女子トイレが冬季は寒い、また小学校高学年の女兒も学童保育で利用することから、ウォシュレットを導入した。

2024 年度の図書利用

月	貸出		返却
4	1454	490	1478
5	1433	496	1366
6	1840	637	1870
7	1478	515	1480
8	1536	530	1644
9	1862	659	1799
10	1607	561	1639
11	1718	572	1753
12	1774	570	1612
1	1473	476	1586
2	1676	572	1755
3	2130	724	2169
合計	19981	6802	20151
平均	1665.1	566.8	1679.3